

令和4年度事業報告

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

新型コロナは、世界保健機関がパンデミックと認定（2020年3月12日）してから3年が経過した。この間、国内では8度にわたり感染拡大の波が到来し、在宅勤務や事業推進に係る多くの会議等がウェブによるリモート開催を余儀なくされるなど、大きな影響を与えてきた。

こうした中、当協会では、令和4年度は感染防止対策を講じながら岩手県家畜共進会を3年ぶりに開催したほか、第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会に向けて、6月6日に県内関係機関・団体からなる岩手県協賛会を立ち上げ計画的に準備を行った。大会の結果は、9つの区のうち7つの区で上位入賞を果たし、前回は上回る成績を収めた。

令和2年度から始まった生産基盤拡大加速化事業（増頭1頭当たり246千円交付等）については、前年度実績を下回ったものの、119戸の農家が参加し、導入頭数は339頭を数えた。同じく繁殖雌牛の増頭を目的とした肉用牛経営安定対策補完事業・中核的担い手育成増頭推進の導入頭数67頭を合わせると406頭で、特に、加速化事業が引き続き繁殖農家の増頭意欲を喚起している結果となった。

また、東北生乳販売農業協同組合連合会（以下「東北生乳販連」という。）からの業務委託契約に基づいて平成19年4月から実施してきた生乳検査業務について、令和4年11月に、東北生乳販連から検査業務の広域統合を図るため、当協会との業務委託契約を解除する旨の通知があり4年度末で終了となった。

家畜衛生面では、豚熱や高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の東北における発生リスクが、これまでになく高まった年度となった。前年度に引き続き、養鶏場における自衛防疫意識の高揚を図るため、11月16日に「高病原性鳥インフルエンザ相次ぐ発生！（チラシ）」を配布したが、3月14日に、県南地域の養鶏場でHPAIの発生を許すこととなった。

畜産経営を取り巻く環境は、令和4年以降、ウクライナ情勢に伴う穀物価格の上昇等によって配合飼料価格が上昇し畜産経営を圧迫している。特に、酪農家は生乳需給の緩和基調などの要因も加わり収益性が悪化しており、本県でも例年以上に離農が進んでいる。

このように、畜産経営については、先行きに不透明感を増す状況となっており、当協会には、今後一層、畜産農家のニーズへの的確な対応が求められている。

<重点事項>

- 1 将来を担う経営体を対象とした経営診断・経営技術指導の実施
- 2 地域畜産をけん引する収益性の高い経営体の育成推進
- 3 肉用牛肥育経営安定対策の的確な実施
- 4 家畜人工授精用凍結精液等の安定供給及び適正利用の推進
- 5 登録制度を活用した家畜の遺伝的能力の向上
- 6 自衛防疫意識の啓発と地域ぐるみのワクチン接種推進
- 7 高い精度で安定した生乳検査の実施
- 8 第12回全国和牛能力共進会に向けた県出品牛の最終選抜と出品対策の推進

I 実施事業

1 継続事業 1

畜産振興を目的として、経営の改善・生産技術の向上、経営体の育成、家畜改良の推進、家畜衛生の向上及び畜産物の安全確保、調査及び情報提供、家畜生産・家畜改良意欲の増進啓発等に係る事業を実施した。

<経営安定・改善のための診断・助言等に係る事業>

(1) 畜産生産基盤育成強化事業

[県委託：5,032千円]

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営の確立を推進するため、関係機関・団体による経営分析・指導等を行った。

ア 畜産経営体支援指導研究会 1回

イ 畜産経営技術の総合支援指導

(ア) 個別支援指導の実施

① 経営診断に基づく改善指導 10件

② 経営管理技術指導 36件

③ 生産技術指導 73件

④ フォローアップ指導 51件

(イ) 地域セミナーの開催 3回

ウ 畜産経営情報の提供

ホームページに情報掲載(随時)

(2) 畜産特別資金等推進指導事業

[中畜補助：4,730千円]

畜産特別資金借入者の経営を改善するため、関係機関・団体で組織する「畜産特別資金岩手県支援推進協議会」による農家指導等を行った。

ア 融資機関への指導 21回(延べ)

イ 経営改善計画作成、見直し及び達成に係る指導

(ア) 見直し指導 2回、8戸

(イ) 達成指導 39回、33戸

ウ 借入者の負債残高等経営改善進捗状況調査

8融資機関、60戸(前年度対比10戸減)

エ 借入者の経営改善計画の定期的実績点検及び調査

55戸(前年度対比10戸減)

(3) 地域畜産支援指導等体制強化事業

[地全協補助：26,479千円]

地域畜産の安定及び高度化を図るため、国及び県の主要な畜産振興施策を補う各種事業を実施した。

ア 畜産経営の支援体制強化事業

・ 経営診断指導 170戸、地域セミナー3回

- ・ 乳質改善指導 326戸（ミルクシステム診断に併せて実施）
- ・ 研修会及び会議等への参加及び情報提供等
- イ 地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供に資する事業
 - ・ 県域及び地域の家畜共進会支援 20地域
 - ・ 畜産関係情報の提供及び普及啓発 要覧作成、ホームページ更新（随時）
- ウ 馬事普及啓発の推進体制強化事業
 - ・ 競馬場（盛岡）における畜産フェア 畜産物加工品配布 200人分
 - ・ 競馬冠レース優勝者への副賞（いわて牛）授与 2回
 - ・ 地方競馬ミルクウィーク開催 県内乳製品配付 450個
 - ・ 競馬冠レース優勝者への副賞（ヨーグルト特選セット）授与 1回
 - ・ 競馬場（盛岡）におけるJBC畜産フェア 畜産物加工品配付 1,000人分

（4）畜産経営技術指導事業（生産技術情報提供事業）

[中畜請負：445千円]

家畜の生産技術指導に資する情報を整備するため、家畜の生産・出荷成績等のデータ収集及び分析に基づく助言指導を行った。

- ・ 酪農経営 3戸
- ・ 肉用牛経営（繁殖） 2戸

（5）ミルクシステム診断事業

[独自：6,046千円]

酪農経営における収益性向上のため、ミルクシステム診断及び搾乳指導等を実施した。

- ・ ミルクシステム診断 325基（前年度対比30基減）
- ・ バルククーラー点検 313基（前年度対比18基減）

<担い手の強化・育成等に係る事業>

（6）肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策）

[機構補助：7,182千円、預かり補助金43,039千円]

肉用牛の安定生産を確保するため、国の経営安定対策を補完する取組を支援した。

ア 肉用牛生産基盤強化対策

- ① 中核的担い手育成増頭推進
繁殖雌牛増頭への奨励金 5農協、67頭（前年度対比84.8%）
- ② 遺伝的多様性に配慮した改良基礎確保
繁殖雌牛導入等への奨励金 1農協、2頭
- ③ 優良繁殖雌牛導入支援
優良雌牛導入等への奨励金 3農協、32頭（前年度対比43.8%）
- ④ 肉用牛ヘルパー推進
肉用牛ヘルパー利用の推進 5組合
- ⑤ 肉用牛振興推進指導
①から④の円滑な実施のための指導等

イ 地域の特色のある肉用牛振興対策

- ① 地方特定品種の振興
 - ・ 特徴ある牛肉生産等 1農協、10集団
 - ・ 計画出荷対策 1農協、186頭
- ② 山振地域における肉用牛振興
 - 優良子牛適正出荷推進 1農協、2,108頭
- ③ 地域の特色ある肉用牛生産推進指導
 - ①から②の円滑な実施のための指導等

(7) 肉用牛経営安定対策補完事業（強化哺乳技術を活用した早期出荷支援）

[機構補助：226千円、預かり補助金426千円]

肉用子牛の発育向上及び早期出荷を図るため、強化哺乳技術を活用した子牛生産の取組を支援した。

ア 早期出荷支援対策

早期出荷の取組に対する奨励金 3農協、71頭

イ 推進会議 1回

(8) 生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）

[全肉振委託：5,065千円]

優良雌牛の増頭による肉用牛生産基盤の拡大を図るため、本県の窓口団体としての事務を行った。

ア 対象 17取組主体（119戸）

イ 奨励金交付頭数及び金額 339頭、79,063千円

ウ 推進会議 2回

<地域が連携した畜産振興等に係る事業>

(9) 畜産クラスター機械導入事業（窓口団体事務）

[中畜委託：3,253千円]

畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち機械導入事業について、本県の窓口団体としての事務を行った。

ア 対象 12か所の畜産クラスター協議会

イ 要望額 109,819千円（機械1,057台）
 ウ 配分額 109,819千円（機械1,057台） } 金額は補助金ベース（機械価格の1/2）

※ 配分率 100%

[主な導入機械]

機械名	価格	機械名	価格
フォーレイジハーベスター	30,000千円	自動給餌機	7,230千円
汎用型飼料収穫機	10,373千円	カッティングロールベラー	6,200千円
リアルタイム計測式歩数計	9,500千円	ホイルローダー	5,367千円
コンビネーションベラー	7,790千円	固液分離機	4,716千円
コーンハーベスター	7,250千円	哺乳ロボット	3,500千円

エ 機械導入状況調査（令和元年度及び令和2年度導入分）
4協議会 4台

(10) 畜産経営体生産性向上対策事業（ICT化等機械装置等導入事業）

[中畜委託：201千円]

肉用牛経営及び酪農経営における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化等に資する機械装置の導入（リース）等を支援した。

- ア 普及対象 75か所（応援会議、クラスター協議会、JA、市町村等）
- イ 推進会議 1回
- ウ 利用状況確認 4応援会議

(11) 酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（労働負担軽減対策）

[中畜委託：690千円]

酪農経営における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化等を推進するため、機械装置の導入（リース）及び導入される機械装置と一体的な施設の整備について、普及啓発を行った。

- ア 普及対象 75か所（応援会議、クラスター協議会、JA、市町村等）
- イ 推進会議 1回
- ウ 利用状況確認 2応援会議

(12) 畜産クラスター全国推進事業（改善効果調査）

[中畜請負：150千円]

畜産クラスターの効果を検証するため、事業取組経営体を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 1戸

(13) 畜産クラスター全国推進事業（全国実態調査）

[中畜請負：960千円]

畜産クラスターの取組を推進するため、先進的経営体等を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 12戸

<家畜改良の推進等に係る事業>

(14) 酪農経営支援総合対策事業（乳用牛改良増殖推進）

[家畜改良事業団委託：276千円]

一般社団法人家畜改良事業団と牛群検定組合等との間で行われる事務手続きに係る窓口業務を行った。

対象 4牛群検定組合

(15) 馬の改良増殖推進事業

[地全協補助：2,292千円]

農用馬の改良及び生産振興を図るため、奨励金の交付等を行った。

- ア 優良種雄馬繁殖奨励
 - ・ 種付奨励金 種雄馬 4頭
 - ・ 種付頭数 25頭
 - ・ 交付額 400千円
- イ 子馬生産奨励
 - ・ 生産奨励金 生産頭数 28頭
 - ・ 交付額 1,492千円

<家畜衛生の普及推進等に係る事業>

(16) 家畜防疫互助基金支援事業

[中畜委託：3,088千円]

口蹄疫、豚熱等発生時の経済的損失を、生産者が互助補償する体制整備のため、互助基金制度の周知と加入促進を行った。

- ア 推進会議 1回
- イ 加入実績（括弧内は加入率）
 - ・ 乳用牛 568戸（74.2%）、36,228頭（90.3%）
 - ・ 肉用牛 2,509戸（68.7%）、76,152頭（85.4%）
 - ・ 豚 48戸（55.8%）、343,263頭（69.8%）

(17) 家畜防疫・衛生指導対策事業

[中畜補助：2,459千円]

地域における自衛防疫活動を推進するとともに、農場HACCP認証の取得に向けた取組を支援した。

- ア 地域自衛防疫推進
 - 推進会議 2回、防疫演習 4回
- イ 地域疾病対策
 - 慢性感染症対策 牛伝染性リンパ腫（EBL） 1戸
- ウ 地域農場HACCP認証支援
 - 構築指導 3戸

(18) 馬飼養衛生管理特別対策事業

[中畜補助：662千円]

馬の飼養環境の脆弱化による飼養衛生管理技術レベルの低下を防ぐため、衛生管理に係る講習会の開催等を行った。

- ア 委員会等の開催 委員会 1回、講習会 2回
- イ 実態調査 82戸

(19) 育成馬等予防接種推進事業

[中畜補助：292千円]

馬伝染性疾病の発生を防止するため、計画的な予防接種（日本脳炎、破傷風及び馬イ

ンフルエンザ)を推進した。

日本脳炎 34頭、破傷風混合3種 47頭、馬インフルエンザ 19頭

(20) 馬防疫強化地域推進対策事業

[中畜補助：1,387千円]

馬インフルエンザ及び馬鼻肺炎の防疫対策として、農用馬等へのワクチン接種を推進した。

馬インフルエンザ 90頭、馬鼻肺炎 34頭

(21) 牛疾病検査円滑化推進対策事業

[農水省補助：1,355千円、預かり補助金8,190千円]

死亡牛の円滑かつ適正な処理とBSE検査の円滑な実施を推進するため、処理に要する費用への補助を行った。

96か月齢以上の死亡牛及び起立不能等 1,009頭

<技術研鑽・生産意欲増進等に係る事業>

(22) 家畜共進会開催事業

[県補助：1,250千円、独自：1,331千円]

県内畜産農家の家畜改良意識の向上と相互研鑽の場を提供するため、全県を範囲とする岩手県畜産共進会を畜種別に開催した。

部 門	時 期	出品頭数	会 場
黒 毛 和 種	7月27日	45頭	JA全農いわて中央家畜市場
ホルスタイン種	9月 1日	71頭	同上
日 本 短 角 種	9月 2日	36頭	同上
馬	9月 8日	9頭	馬っこパーク・いわて
肉牛(黒毛和種)	11月19日	40頭	(株)いわちく

<畜産に係る調査、情報収集及び情報提供等に係る事業>

(23) 「岩手の畜産」発行事業

[独自：1,437千円]

畜産農家及び畜産関係機関・団体に、畜産経営に関する有用な情報を提供するため、会報「岩手の畜産」を発行した。

年6回(奇数月)発行 1回当たり発行部数 1,350部

(24) 畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業

[畜産近代化リース協会委託：1,287千円]

畜産近代化リース協会貸付事業により導入された施設・機械の適正利用を確保するため、物件確認と管理状況調査等を行った。

調査物件数 106件、リース事業周知 14回

(25) 地域連携支援事業

[公庫委託：66千円]

畜産経営の改善に資するため、会議等において、公庫資金に係る情報を提供し、活用を推進した。

(26) 畜産技術指導促進事業

[独自：426千円]

研修会、会議、共進会等において、畜産技術情報の提供等を行った。
会議等 6回

(27) 図書支援事業

[独自：358千円]

畜産に関する知識・技術の普及向上を図るため、公益社団法人中央畜産会が発行する月刊誌「畜産コンサルタント」等の書籍の斡旋配布を行った。

畜産コンサルタント 348部、一般書籍 11部

2 継続事業 2

肉用牛肥育経営安定対策事業

肉用牛肥育経営安定交付金制度事務管理運営事業

[預かり補助金：180,805千円、生産者等：409,050千円、
機構委託：12,542千円、独自：11,964千円]

肉用牛肥育経営の安定を図るため、月ごとに肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、差額の9割を補填金として交付するなどの事務を行った。

(1) 返戻金

第1業務対象年間（平成30年12月30日～令和4年3月31日）終了時の肥育安定基金残高について、基金拠出者への返還（無事戻し）を実施した。

基金残額：276,498千円

(2) 肥育牛補填金（交付金）交付（預かり補助金・生産者等）

ア 基金造成

生産者等 409,050千円

イ 預かり補助金

機構 180,805千円

ウ 登録生産者及び負担金納付実績頭数

登録生産者数 273戸、負担金納付実績頭数 28,150頭

内訳

品 種	在庫牛	通常牛	合 計
肉 専 用 種	4,062頭	9,927頭	13,989頭
交 雑 種	3,504頭	8,274頭	11,778頭
乳 用 種	449頭	1,934頭	2,383頭

エ 肥育牛安定基金造成

品種区分	生産者負担金
肉 専 用 種	139,884,679円
交 雑 種	223,828,021円
乳 用 種	45,337,602円
計	409,050,302円

※ 令和2年4月から実施された負担金納付猶予（全品種）及び同月販売分からの基金払底（肉専用種）により、基金から交付される補填金額と相殺された生産者負担金納付額を含む。

オ 補填金交付

品種区分	対象頭数	交付額※
肉 専 用 種	2,187頭	48,625,423円
交 雑 種	5,699頭	115,242,739円
乳 用 種	1,946頭	77,204,999円
計	9,832頭	241,073,161円

※ 交付額は、農畜産業振興機構からの預かり金180,805千円を含む。

[補填金発動状況（金額は1頭当たり交付金額）]

（単位：円）

月	肉専用種	交雑種	乳用種	月	肉専用種	交雑種	乳用種
4	-	-	39,903.3	10	-	10,291.5	43,010.1
5	-	-	42,264.9	11	-	1,765.8	36,964.8
6	-	30,939.3	43,892.1	12	-	-	49,166.1
7	-	34,163.1	38,371.5	1	32,888.7	12,947.4	43,470.9
8	39,591.0	43,261.2	44,452.8	2	59,155.2	46,034.1	45,992.7
9	2,515.5	21,557.7	40,458.6	3	61,966.8	10,440.0	56,792.7

(3) 事業推進（機構委託）

ア 会議開催、事務委託費の交付

イ 事務委託先（9団体）

全国農業協同組合連合会岩手県本部、（一社）岩手県配合飼料価格安定基金協会、新岩手農業協同組合、岩手中央農業協同組合、花巻農業協同組合、岩手ふるさと農業協同組合、岩手江刺農業協同組合、いわて平泉農業協同組合、岩手花平農業協同組合

(4) 事務推進（独自）

ア 協会事務費

人件費、旅費、会議費、印刷製本費、消耗品費、消耗什器備品費、通信運搬費、租税公課等

イ 委託先事務費

3 継続事業3

家畜自衛防疫事業

[農水省補助：12,481千円、独自：188,212千円]

(1) 家畜生産農場衛生対策事業

[農水省補助：12,481千円]

家畜生産農場における家畜伝染病等の清浄化及びまん延防止のため、同居牛のとう汰や組織的な予防接種等を推進した。

※ 括弧内は前年度対比

ア ヨーネ病防疫推進

自主とう汰奨励金 7戸 (233.3%) 34頭 (309.1%)

イ 伝染病の発生・流行防止対策

アカバネ病予防接種 39,276頭 (93.6%)

ウ 牛伝染性リンパ腫対策

清浄化推進農場抗体検査 29戸947頭 (227.1%)

エ 牛ウイルス性下痢対策

・ 自主とう汰奨励金 2戸4頭 (200.0%)

・ ワクチン接種 1戸200頭 (285.7%)

(2) 家畜自衛防疫推進・支援事業

[独自：188,212千円]

ア 予防接種推進事業

家畜伝染性疾病の発生を予防するため、地域ぐるみのワクチン接種を推進した。

ワクチンの種類	頭数
牛5種混合(生)	18,678頭(96.8%)
牛5種混合(不活化)	3,778頭(68.6%)
牛6種混合(生・不活化)	7,575頭(110.4%)
牛6種混合(生)	3,879頭(113.6%)
牛ヘモフィルス	18,074頭(98.7%)
豚丹毒(生)	36,380頭(84.9%)
豚丹毒(不活化)	41,070頭(115.4%)

※ 括弧内は前年度対比

イ 家畜伝染性疾病緊急防疫対策事業

家畜伝染性疾病の発生による被害を最小限とするため、初期の迅速な防疫活動に要する経費に補助を行った。

対象疾病	件数	補助金額
牛ヨーネ病	39件(354.5%)	-円(0.0%)
牛ウイルス性下痢	1件(100.0%)	233千円(131.6%)
牛サルモネラ症	2件(100.0%)	505千円(101.6%)
合計	42件	738千円

※ 括弧内は前年度対比

II その他事業

1 その他事業1

家畜人工授精用精液流通調整事業

[独自：81,043千円]

本県の肉用牛及び乳用牛の改良増殖を推進するため、サブセンターを通じて、家畜人工授精用凍結精液等の供給を行った。

(1) 凍結精液等の供給

※ 括弧内は前年度対比

ア 凍結精液 99,071本 (99.7%)

内訳：肉用牛 69,910本 (110.0%)、乳用牛 29,161本 (81.4%)

イ 受精卵 984個 (218.2%)

内訳：肉用牛 976個 (236.3%)、乳用牛 8個 (21.1%)

ウ 液体窒素 52,944kg (100.5%)

(2) 経営効果の高い精液の利用推進

家畜人工授精担当者を対象に事業の円滑かつ適正な実施を確保するとともに、家畜改良及び増殖を推進する目的として、会議を開催した。

事業推進会議 1回

(3) 供給精液の受胎状況調査

授精技術の検証及び受胎率の向上等を目的として、供給精液の受胎状況調査を行った。

(4) 家畜改良に関する情報の提供等

利用可能種雄牛、種雄牛遺伝能力、和牛子牛市場成績、枝肉成績、家畜改良に関する新技術などの情報を提供したほか、鹿児島県で開催された第12回全国和牛能力共進会の視察研修（参加者5名）を実施した。

2 その他事業2

家畜登録事業

[独自：48,372千円]

本県で飼養される乳用牛及び豚の改良を促進するため、家畜登録事業の活用を推進した。

(1) 家畜登録等の件数

※ 括弧内は前年度対比

ア 乳用牛 10,142件 (92.8%)

内訳：血統登録 5,172件、牛群審査 1,328件、牛群検定成績証明 824件、移動・その他 2,818件

イ 豚 1,886件 (55.3%)

内訳：種豚登録 624件、子豚登記 766件、審査 488件、移動・その他 2件、農場認定 6件

(2) 事業推進

ア 家畜登録事業情報の提供

イ 登録委員等の委嘱・適正配置 委嘱5名・解嘱8名

- ウ 登録担当者会議の開催 1回
- エ 登録関係研修会への参加・派遣 会議2回、研修会1回17名

3 その他事業3 生乳検査事業

[独自：111,223千円]

東北地域の農業協同組合等からの委託又は依頼を受けて、生乳取引等に係る生乳検査を実施した。

(1) 検査実績

- ※ 括弧内は前年度対比
- ア 生乳取引関係 498,970,317kg (98.3%)
- イ 牛群検定関係 483,307件 (96.0%)
- ウ 依頼試料乳
 - ・ 成分及び体細胞数検査 25,988件 (94.3%)
 - ・ 細菌数検査 17,365件 (101.8%)

(2) 検査項目

- ア 成分
脂肪率、蛋白質率、乳糖率、無脂乳固形分率、全固形分率、乳中尿素態窒素
- イ 体細胞数
- ウ 細菌数

4 その他事業4

(1) 研修事業

[独自：434千円]

関係機関・団体が行う研修会等への職員派遣を通じて、最新の技術・知識の修得と協会における業務遂行能力の向上を図った。

- ア 職員技術研修事業
研修会等への派遣 9名
- イ 北海道・東北ブロック畜産協会職員研修事業
新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止

(2) 畜産理解促進事業

[中畜委託：2,926千円、独自349千円]

競馬場等、市民が集う場所・催事において、畜産物の配布等を行い、畜産への理解を促進し、併せて、地方競馬の活性化を支援した。

- ア 地域畜産支援指導体制強化事業（畜産関係団体調整機能強化事業）
中央打合会及び管理責任者等研修会への参加
- イ 岩手競馬支援特別対策事業（独自）
 - ・ 畜産フェアにおける県産畜産物加工品配布
200個配布（10月・盛岡）
 - ・ 冠レースでの会長賞授与
第45回すずらん賞（8月・盛岡）、第21回寒菊賞（12月・水沢）